

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	加美
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県加美町
記入者名 (管理者)	石川春美
記入日	平成 20年 3月 2日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創り上げ、玄関壁に掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所とは別に、介護職員の理念を「輪・和・笑」とし双方を、自然体で共有している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所独自の物は玄関に掲示。介護職員の物は、郵送や配布している。	近隣であれば、お便り等配布や行事への参加を呼びかける。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の挨拶を交わしたり、行事への参加や野菜を分け合っている。	挨拶・行事への参加を継続
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	機会は少ないが、町内の催し物へ参加している(初午祭り・花火鑑賞・図書館祭りなど)	地域のほうから、お祭りへの声かけを頂いているので、参加するようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体で評価を確認し、具体的に実施のために、前向きな姿勢で取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス実際、外部評価について、報告は議事録の送付とファイルで閲覧できるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者に対し、こちらから理解と支援を求めて働きかけ、話し合いや相談の機会を設けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、知識を有するものは少ない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務の中で、意識しあったり、参考ポスターを見ることで認識している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には家族と十分話し合い、疑問・不安の解消に努めている。	家族や入居者からの苦情や不安の声が少ないので、解消に努めたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の関わりの中で声を共有したり、家族からは面会時に聴き取って反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回日常報告、写真、輪・和・笑便り、収支報告等を封書で行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名式のアンケートを実施した。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議と日々の対話の中で設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者、職員の体調不良や私的事由の変化時、その都度変更し対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度、実践者研修2名受講・ケアマネ1名受験・介護福祉士2名受験と他研修への機会をつくっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会や町主催の勉強会などへ参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	随時、互いに取り組むようにしている。	研修等で同職種に携わる人達と意見交換していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	身となる資格の支援や研修等への参加を促進し、奨励している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前、訪問、実態調査をし状態や状況を把握するように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実態調査時、時間をかけて聴き取るように努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族などの希望が優先し、本人が納得できないままのケースがあったが、自然に馴染めるよう工夫している。		本人の意見が多くきけるよう家族の協力を得て、受け入れたい。
く				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることを手伝ってもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年中行事を便りで告知し参加の呼びかけを許容範囲内でお手伝い頂いている。助言も。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	手紙や電話での近況報告。面会へ気軽に訪れられるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰省時に自然と交流をもつ機会をつくったり、こちらからの提案で実施した。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係性の把握に努め、職員間で情報共有し合い適切に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も家族と連携しながら、本人の居場所づくりや面会・訪問を適切に行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活記録や生の声を大切に残し、意識して共感し継続している。困難時は最期まで人間性と人権を重んじている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	向き合う時間や個々の過ごし方の中から、言葉や動きにより自然体で捉えるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	小さなことでも口頭・記録で情報交換している。月ごとに支援経過表とモニタリング録で総合的にまとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント様式は国基準にセンター方式を混合。生活支援のために、医療面も含め幅広く深く考え工夫し作成している。が、家族からの意見はなく、困っている。		プラン(1)に同意欄をいれているので付随した形で、空欄を設け家族からの声が入るようにし、アセスメントに反映させたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期3ヶ月短期1ヶ月と期間を設定。変化時は、本人・家族・かかりつけ医・行政関係者と話し合い、統一感のあるケアが行われるよう方針を方針と方向性を定め、連絡ノートで徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・生活リハビリ表・排泄表・月バイタル表で記入とグラフ化した文書を使用している。これらを活用し、2人の職員が3人の担当者として経過を把握し、まとめはケアマネが行い、全員で取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事に家族へ参加を呼びかけたり、近隣住民へ招待状を渡し参加頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防や民生委員等とは協力し働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			GHで利用可能なサービス種類を知りたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外のかかりつけ医も協力的で、適切安心な医療をしてもらっている。		往診を月1回依頼し、実施できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	していない。	協力医と医療連携体制が結べるようにし、医療行為に対する直接指導や知識を学び、こちらからは生活介護を教えた
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	転居時、医師の説明や話合いに家族と共に参加し、職員にも報告している。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	早期段階で本人・家族・かかりつけ医・施設側で話し合う機会をもち、方針を共有した。	入居者の状態がそれぞれであり、家族は真剣に考えていることは少ない。個々で話し合いをもつ。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	していない。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	包括支援センター・福祉事務所・医療機関・サービス事業所と情報交換している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	文字の取り扱いには気をつけている。言葉について時折、配慮が欠けるので、努力していくべきである。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアの1コマごとに表出されるので、分かるまで柔軟性ある気持ちの中にとりもって、時・場所・人を変え、納得できるまで臨機応変に対応することで、自己決定がされている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつの時間外は、自由な過ごし方をされている。個別に希望・意思に沿って支援している。居室で1人で過ごす人はいない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は、男性が職員・女性は出張ボランティアして頂いている。みだしなみについては、そのひとらしく本人の合意の上支援している。パーマや毛染めについては年齢相応だから、せずにこのままがいいという声がある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	収穫物や配達食材を調理し共にゆっくり味わい、片付けも自発性を保つようになっている。促さなくても「お手伝いしましょうか」とさりげない言葉があり助け合っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事形態の工夫、希望外の飲み物を一緒に飲んで楽しめている。好みを把握しながら色とりどりの飲み物を用意している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	開放感ある排泄ができることを大切にしている。トイレ使用や水分種類の設定と量の把握、薬による調節、ハンドケアで対処し、昼夜のスケジュールを記し、把握し、その都度検討している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望により、入浴は午後から好きな時間に1人ひとり楽しんでいる。入浴するまで嫌がる方がおり、気分を考慮し時間を空けたり物を活用したり、部分浴や清拭で対応している。		入浴拒否する方に、もうひと工夫した声かけをしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	先月入居の方のみ安定剤服用しているが、少しずつ生活環境を整えながら定着した暮らしができるようにしている。その他の方は、個別性を重んじることで、十分に眠れ、一息ついている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	認知の程度や特技に合わせて、楽しみごとまたは役割を作り出し分担している。達成感が表れることで”また今度も”につながっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に係る能力を把握し、力に応じて適切にしている。小遣い程度の金額を自己管理している人は2人。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの店での買物・外食・外泊・ドライブ・散歩・外出と、種類に変わらないが、回数が減ってきている。		回数を増やし気分転換を図っていくことを継続する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じ外出している。昨春初めて外出先で、家族の方と交流を図ることができた。個別や2グループに分けて引率している。		以前に「温泉」という意見があった。「足湯」でも楽しめる等工夫していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は意思や希望が有れば叶えている。手紙は届いても本人が折り返すことは減っている。職員が代役になり、毎月様子を家族へ送付している。年賀状は1人ひとり家族へ毎年送っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	食事と夕食後の時間帯の訪問を除き、いつでもこれるようにしている。訪問者の居心地に対する思いはわからない。		談話空間が限られているのでくふうしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に身体拘束を行わない旨を明記している。自由な行動の中、何が拘束で弊害になり、どうなるか話し合っている。		虐待と共に人権について再確認しながら取り組み学ぶ。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	排泄時の羞恥心と特定の方の侵入を防ぐ為に自主的に鍵をかけたり開閉間隔を調節している人がいる。玄関に感知器を設置し、外に出た時見守りと付き添っている。近所の方に協力をお願いしており知らせを受けたり特定の人について様子を尋ねられることもある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	座敷・台所・食卓に常に職員が分かれていることで、把握するよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品は事務室の上棚や床下、洗剤は洗面台下に保管。刃物は流し台下に入れ、扉が開かないよう鍵がある。また、入居者の生活必需品の買い置きや預かり品は混乱を招かないよう一定のところに置き、その都度渡している。		注意が必要な物品の保管管理に係るマニュアルがないので定めて徹底したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアルを周知している。年1回避難訓練を実施。事故の再発防止の為に報告書を活用、それを未然に防ぐためのヒヤリハットレポートを活用し、月1回の会議で話し合っている。		会議外でも機会を増やし検討と課題について話し合いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変の可能性のある入居者は家族と話し合い、対応を決めマニュアルに沿って、事故発生時も同様にしている。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回火災発生時の訓練を昼夜想定で実施している。	避難誘導時の、人員の場所配置
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自宅でもありえるリスクや夜間想定外のことに關しては、家族などに説明し理解してもらっている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時・随時のチェックをしている。変化時は他職員にも連絡している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋・辞書一覧表で確認。服用時毎に分け、服用の都度準備し、食事の際に用意している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事形態の工夫、排便チェック、水分補給とその人に合った種類の検討と量の把握、自力困難時の坐剤・下剤使用。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立者は任せている。介助要者には、声かけや見守りの下してもらっている。	自立者の義歯洗浄を含めた口腔内の観察を、週・月1回していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューを提供している。体重増の方に少なめにしたり、代替品を用意したり、状態に合わせて好みや摂り易い形態に工夫している(トロミ・流動・刻み・ペースト)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	おむつ交換、汚物処理・傷や吸引処置、排便ケア時手袋着用。健康診断を入居者10・11月、職員11月 インフルエンザ予防接種を入居者11月実施。食前の弱酸性次亜塩素酸水での手指消毒		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫や台所周りはその都度。洗浄用具は毎日漂白。机・椅子・手すりなどは毎日消毒、食器や調理具は使用後乾燥機を使用。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	草木や草花の鉢植え、縁台を置き休息したり靴の脱ぎ履きが安全にできるようにしている。		花を増やしたり、玄関先に椅子や机等おいたり工夫したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの自然採光、適量なテレビ音、温風の調節、季節に合った花飾りと装飾品。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花壇・菜園、廊下のソファ、座敷に居ることがよかったり、食卓でも1人や複数でいたりと思いに合わせて場所を活用し過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使用していた家具・ベッド等持込で使用している。好みのものもあり、個性的である。		もう少し物を増やしたり、居心地よく過ごしてもらいたい。馴染みの物は少なく家族と相談する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温風ヒーター・エアコンと換気扇の共用・こまめな窓開放により、においやよどみをとっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クッション性ある床材、全ての経路に手すり、衣類干しの高さ等も丁度よく、浴槽には滑り止めマット。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室戸に名札と写真と似顔絵、便所戸に「便所」と見やすいように表示。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	職員持込や近隣の方から頂いた花もあり、全員で眺めた後は鉢植えしたり、花瓶に生け皆で世話している。畑で野菜・樹木・草木を育てている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1	①ほぼ全ての利用者の
		1	②利用者の2/3くらいの
		3	③利用者の1/3くらいの
		1	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	6	①毎日ある
		1	②数日に1回程度ある
		1	③たまにある
		0	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	5	①ほぼ全ての利用者が
		2	②利用者の2/3くらいが
		0	③利用者の1/3くらいが
		0	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1	①ほぼ全ての利用者が
		5	②利用者の2/3くらいが
		0	③利用者の1/3くらいが
		1	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	2	①ほぼ全ての利用者が
		0	②利用者の2/3くらいが
		3	③利用者の1/3くらいが
		2	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	3	①ほぼ全ての利用者が
		1	②利用者の2/3くらいが
		0	③利用者の1/3くらいが
		0	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	3	①ほぼ全ての利用者が
		3	②利用者の2/3くらいが
		0	③利用者の1/3くらいが
		0	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	2	①ほぼ全ての家族と
		3	②家族の2/3くらいと
		1	③家族の1/3くらいと
		0	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	0	①ほぼ毎日のように
		1	②数日に1回程度
		2	③たまに
		4	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	①大いに増えている
		6	②少しずつ増えている
		0	③あまり増えていない
		0	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	2	①ほぼ全ての職員が
		1	②職員の2/3くらいが
		0	③職員の1/3くらいが
		0	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	①ほぼ全ての利用者が
		3	②利用者の2/3くらいが
		1	③利用者の1/3くらいが
		0	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	2	①ほぼ全ての家族等が
		3	②家族等の2/3くらいが
		1	③家族等の1/3くらいが
		0	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)